

9. 円卓フォーラムにおける学生の声

①地域をテーマにどのような研究、活動をしてみたいか

- 地域活性化や特産品の活用
- 地域の方々と触れ合ってどのような課題を抱えているか知りたい。
- もう一度漁業体験をしたり、海藻の商品開発に関わってみたい”
- 独りぼっちに優しい島暮らし計画
- 地域が抱える後継者問題や特産物を活かした加工品などの研究をしてみたい。
- 継続した農作業体験がしてみたい。また、教養ゼミで体験したせとかの摘果以外の漁業体験などもしてみたい。
- コラボマルシェをしてみたい。
- ただ体験するだけでなくその体験をビジネスにつなげるなどしてみたい。
- 1日だけでなく、もっと長時間、地域と関わりたい。長い期間で学習し、学生側から農家の方々に意見を出せるようにしたいと思った。
- 安芸津の土が農業に適している話を詳しくしていただいたので、それをもとに研究につなげてみたい。
- 広島県の大崎上島のような地域で、どのようなブランドや資源があり、アピールしていけるか。
- 新しい商品を一緒に開発してみたい。
- 私はある地域の棚田で耕作放棄地の開墾をしている。今回のフォーラムに参加し、継続的にこのボランティア活動に参加し、地域の人たちと関わっていきたいと思った。
- 中山間地域の活性化につながるイベントの運営や農業技術の向上のための研究をしてい見たいと思った。
- 私たちのゼミが関わったのは一次摘果の部分だったので他の作業もできたら全体のイメージがつかみやすいと思った。ぜんたいのイメージがつかめる活動をしてみたい。
- インターンシップに対して、少し積極的な気持ちになった。まずはどこかのインターンシップに参加してみたい。
- 1日だけの短い体験で済ませるのでなく、インターンシップのように地域に住み込んでより深く関わりたい。

- 私たちは機会に恵まれ、商品開発というめったに体験できない活動に参加させていただいた。それを踏まえ、してみたい活動として何か新しい「もの」を地域の人と一緒につくっていくという活動ができたらいいなと思う。また、インターンシップなど積極的に参加したいと思った。
- 加工食品について詳しく研究したい。地元の特産をより広められるようにしたい。
- 今年度の教養ゼミでは、農業や開発、生産、販売の一部分にしか関わることができなかったのもので、次は生産や初期の過程から一貫して関わることができる長期的な活動をしてみたい。
- 地域産業の活性化のための活動を提案、実施を実際にできるのであればぜひやってみたい。やはり、実際に体験したことが、今後の自分の学習にも生かされると思うので、まずは農業や商業の体験をしてみたい。
- 専門の知識を身につけることができれば、商品開発でももっと役立てると思った。
- 1つの地域に入って、何度も長期間で活動したい。そうすることで、現状をしっかりと学んでいきたいと思った。
- 農作業体験をした後に、地域の方の求めているものを、もっと聞くことができるような活動に参加したい。
- 水質浄化の研究
- 養殖を効率的に安定したものにするための研究”
- フィールド実習の抽選などに外れて、今までそういう体験をしたことがないので、地元ということもあり東広島市での牧場体験をしてみたい。
- 新商品の開発(知名度をあげるため)、他県へのPR (SNS)
- 農業体験を通念を通して行いたいと思った。1回だけの体験では農業の本当の楽しさや大変さは理解できないと思った。また生産から流通・加工・販売までの一連の流れをもっとよく学び、どのようなことをすれば効果が上がるのか研究したい。
- 条件不利性をかかえ、過疎化している中山間地域をどうしたら活性化することができるか研究したい。イベントに参加するだけでなく日々の生活の大変さも感じてみたい。
- 漁業に関わる卒業研究をしているので、今起こっている現場のリアルな意見を聞きたい。耕作放棄された水田を活用して淡水養殖をしてみたい。また、それがもたらす地域への効果を考案したい。
- 先輩たちがしたように、自分たちも地域に提案をして商品化するような研究をしたい。

- 一次産業から加工に関わるまでの様々な人の意見や実体験を包括的にとらえて、これからの活動や改善につなげる研究をしたい。
- 専門的な知識をいかして水質調査等をおこないたい。
- 大前農園さんのアスパラの加工について自分なりに考えを深めていきたいと思った。「もし自分になにかできることがあれば」という考えのもと、自主的に行動していきたい。
- COCのフィールド体験をきっかけにして単発でなく何度も足を運べるような地域密着の活動をしていきたい。
- 担い手不足に関して、ある市町であとどれくらいの担い手がいれば、経済がうまく動くのか。
- 限界集落で現実的にできること、簡単にすぐできることについてもっと考えたい。
- 地域を活性化させる手助けをおこなうために、まずその地域を知るために何度も足を運びたい。活動をしていくなかでいいところや課題を改善するためにできることが見えると思う。インターンシップのような短期でその地域に暮らしてみたりする機会があればいいと思った。
- 地域振興や地域おこしのために若者がどのように関わっているか、若者のどのような力を求められているのか調べたい。
- 食品科学コースに興味があるので食品関連のインターンシップに行きたいと思いました。地元企業がどのような活動に取り組んでいるのか、今後どういった食品を開発していきたいのか聞いてみたい。それが2、3年生以降の研究のきっかけになればいいと思う。
- 中山間地域と一言でいっても多種多様な特徴があるため、特徴を生かした地域振興の在り方を探っていけるような研究がしたい。
- 農作業等で困っていることを軽減できるようなものを研究したり、自分の手で手伝いに行けたらいいと思った。
- 海藻を使った動物の餌の開発
- 地域に興味を持つためには、楽しいことと大変なことの両方を経験するべきだと思った。農作物の病気を治すための研究がしたい
- 梨の摘果だけでなく、収穫、選果、販売なども関わってみたい。
- 地域の農業の経済状況など現状を知りたい。
- “地域の特産品を生かした商品開発に少し興味をもった。
- 活動は、漁業体験がしたい。”
- 漁体験がしてみたい。

- 体験学習を通じて、海藻が非常に体にいいことがわかった。料理法など教えてもらえることができれば、今の自分と照らし合わせて考えることができると思った。
- さらに詳しく地域について追及していき、地域貢献に関わることがしたい。もっとインターンシップなどもっと長い時間関われるプログラムに参加したい。
- 1年を通じて作物が育つ様子を見てみたい。
- 地域の生活に寄り添った活動、例えば、生活そのものを体験することをしてみたい。
- 海藻を用いた新商品の開発をしてみたい。
- 海藻を実際に採取したり、調理したりすること。
- 体験だけでなく、農業実態をデータなどでも知りたい。地域のどこをPRしたらいいのか考えやすくなる。
- 大学外でも普段から地域の人と協力した取り組みをしたい。
- 地域のもつ強みや魅力を発見してどのようにしたら稼げるか考えたい。
- 1万円はとバスツアーのような、三次市や安芸津などをめぐる旅を企画してみたい。
- 中山間地域では高齢者が多いということを改めて認識した。地元の若者が地域で生活したいと思えるように地元の産業の魅力を若者目線で探したい。
- 今回は農業体験だったので漁業関係の体験をしてみたい。

○円卓フォーラムに参加した感想

- 教養ゼミには参加していないが、このような企画に参加してみたいと思った。
- 教養ゼミで体験したことを思い出して、地域の課題などを改めて考えるいい機会になった。もっと深い討論ができればよかった。
- どの地域も歓迎されているようなことを言ってくれたが、本当かなと思った。もっと悪口言って改善していきたい。時期はずれ感のあることもあったが、本当に大切な部分は見せてもらえないと思うので、自ら地域に貢献して、地域に好かれようとしないと結局地域にも自分にもストレスになると思った。

- 体験学習に参加しただけでなく、実際に地域の方々と話し合う場があったことで、地域政策などについてより深い理解ができたと思う。
- 教養ゼミの体験からだいぶ時期が経過したので、このタイミングで円卓フォーラムがあったことはよい振り返りになったと思う。また、地域の方々と直接意見を交換できる良い機会になった。
- 地域の人と深く話し合うには時間が足りなかった。結局、前回のおさらいをただけになった。新たなものを考え、企画することができたか不明。2年生以降で地域活性化についての授業があればぜひ取りたい。
- 他の人の意見を聞くことで、自分の意見をより深めることができた。教養ゼミで体験に行ってから時間がたった今、振り返りができてよかった。
- 他のグループがどのような活動をし、どのような感想を持ったのかを知ることができた。農業の課題についてよく知ることができた。
- 正直、体験学習の内容はかなり忘れていたが、みんなや地域の方々の意見を聞いてよかった。
- いろんな経験ができ、新しいつながりがたくさんできた。これを機に、いろんなボランティアやイベントに積極的に参加していきたい。
- 私が1年生の時には討論会がなかったので、今回は実際に参加した人たちの素直な意見が聞いて良かった。
- 他の人の意見を聞くだけでなく、自分の意見を言う場が設けられていたのでとてもよかった。地域の方とのワークショップというのは、このような機会がないとできないと思うのでとても意義のあるものであった。
- 実際に身近で地域で関わっている人と討論ができたことがよかった。
- “私たちが行った活動の結果を知ることができたので良かった。
- 1年間を通して学べるようなプログラムがあれば参加したいと思った。”
- 地域の方々と意見を交換し、自分の意見を伝えることができ、貴重な体験ができたと思う。
- ただ体験し、発表するだけにとどまらず、このようにまた一度地域の方々と交流する機会が得られたことはよいことだと思う。今回でてきた意見や反省、将来の展望を活かして地域との関わりをもっと深めていけたらと思う。
- 色々な人の話が聞いて参考になった。
- 教養ゼミの体験先や地域の方から、市の在り方、イメージについて、農業についての話を聞かせていただき、視野が広く持てたと感じた。討論という形式はなかなか経験するものではなかったので、色々な人の考え方を聞くことができ、良い機会になった。

- 連携市町・地域の方々の話を聞くことができるだけでなく、フィールド学習で行った地域の方や他の同学年の人の意見を聞くことができたので、自分の考えも深めることができた。生物生産学部に所属している以上、もっと農業についての知識をどんどんつけて将来に生かしていきたい。
- 様々な地域の活動を知って、もっといろいろな地域に行ってみたいと思った。
- 地域の方々の率直な意見をたくさん聞くことができてよかった。時間が少し短くて、意見をあまりたくさんは交換できなかったことが少し残念だったが、COCの体験学習を振り返ってよかった。
- もっとこのような機会を設けてほしいと思った。1つの体験だけでなく、他の班の体験にも行きたいと思った。
- 地域へ体験学習へ行ってもう1度行きたいかと尋ねられた時に、行きたい気持ちもあるが実際に行っていないのが現状である。声を大きくしていきたい！というほどでもないという気持ちであった。もう1度行くために、また周囲の人に行きたいと思ってもらえるような企画を考える中で最終的には私たち自身の関心度が大切だと思った。
- 教養ゼミのことを思い出したとき、あのゴミ拾いか〜、しんどかったな、ということばかり出てきてあまり楽しくはなかった。しかし、ワークショップで意見を出し合うと色々話がでてきて思った以上に充実した時間になったと思いました。ここまで意見を出すのは多くの方がすることだと思いますが、ここから行動していくチャンスはこの学部の学生でなければなかなかできないので、これからが大事だなと感じた。
- 経験で学んだことをずっと覚えて次に発展させることが大事だと思った。再び振り返る機会となてよかった。もう少し皆に均等に話す機会がほしかった。
- 様々な視点からの意見が聞け、勉強になった。このような機会がないと生産者の方とお話しすることがなかった。地域の方のプレゼン発表も聞けて非常に満足だった。
- 海藻を食べる目的だけでなく、海藻を食べる目的だけでなく保湿成分をいかした化粧品やボディークリームをつくるなどの取組をするのもよいと思った。
- 地域の方々と話す中で私たち広島大学生が周辺地域にとって重要であるかが改めてわかった。
- 地域の方が学生を受け入れるためにいろいろな準備をしてくださっていることを聞くことができて貴重な体験になった。

- 自分たちを受入れてくださった方々がどのように思われているか気になっていた。自分たちが何かしらいい刺激になっていたという旨のお話を聞くことができよかった。
 - 事前学習が足りなかったので、井仁の人たちに迷惑をかけてしましても申し訳ないと思った。
 - 体験した内容を振りかえるきっかけになった。地域の方の声を聴いたり、先輩からインターンシップの話やコースの話など聞いて良かった。
 - も一度地域の方にお会いしてその時離せなかったお話ができたことがよかった。
 - このような機会があったからこそ、考えさせられたこと、体験できたこと、聞いたことが多くあった。これらを通じて自分の考えを発言できるというのがとても充実していた。
 - 地域の方のリアルな意見を聞くことができ、大学との連携の重要性を強く感じた。
 - 地域の人々が大学生にかなりの期待を寄せていることがわかった。その期待に応えるべく、様々な意見を提供する義務があると感じた。何度も地域に足を運んでみて現状を見てみる必要があると思った。
-
- 実際にゼミで現地に行って数か月たち、私たちの発表をうけて地域の方が感じたことや考えなどを直接聞くことができ、貴重な体験となった。
 - 一人ひとり自分の意見を発信することで、自分の考えや発言に責任をもつことができた。円卓で地域の方の意見を直接聞くことで、その問題について真剣に考えることができ、多くの学びを得られることができた。学生が主体的に行動することが必要であり、求められていると感じた。
 - 大学に入ってからあまり討論をする機会がなかったのでとても有意義だった。
 - 教養ゼミ発表会のあとすぐにこのフォーラムがあれば、もっと意見が引き出せると思った。
 - 一番印象に残ったのは、地域の方、地域おこし協力隊の方が「たった1, 2回行っただけのところについて、意見を求めるのは酷なのではないか」「もっと現実的に、地域の年をとられた方はなかなか動けない」といわれたことだった。焦りを感じているのに、私たちは実際力になれないことを実感した。
 - 5分でまとめをつくるのは難しかった。
 - 若者が考えていることと地域の方が考えていること、それぞれの考え方をお互いが知ることができてよかった。

- 受け入れ地域の視点からの発表は、統一性がなく聞くのがしんどかった。何を発表してくださるかをあらかじめ示してもらいたい。
- 地域の方の直接的な感想をきくことができ、問題解決のために何ができるか考えるきっかけになった。”
- 直接太田川漁協の方と意見を交わすことで、自分の意見を伝えることの難しさを感じましたが、今後知識を身にみにつけてどんな研究がしたいか、地域の抱える課題解決にどう貢献していきたいか考えることができた。自分の新たな関心事が増えたように思う。
- 様々な地域の話や意見を聞くことができ有意義だった。ワークショップはもう少し長かったら話が盛り上がったのではないかなと思う。今後もこの取り組みが継続的に充実したものになることを願います。
- 思っていた以上にみんな色々な考えており、様々な意見を聞くことで自分の考え方の幅が広がったと思う。
- 地域の方の熱意や理想、苦悩の一端を理解できたきがした。
- 上級生や地域の方と関わることができ、地域に対する熱意や考え方を知る機会となった。新商品の開発に関わったり、農業者の生の声を聞いたり、一般的な大学生では体験できない貴重な経験だったと改めて思った。経験を思い出に終わらせず、活動のきっかけにしていきたいと思った。
- 1回だけでは見えない問題が解決策があると思うので、四季に合わせて異なる体験ができるといい。
- 実際に地域の役所の方のお話できたのは貴重だった。
- 学生だけでなく、受け入れ側の話も聞くことができ新鮮だった。
- 教養ゼミで何をしたか、どう思ったか改めて見つめなおす機会になった。
- 自分なりに意見を考えて発言することができたので、理解がより深まったと思う。
- 全体としてフィールド体験の復習になったので良かったと思う。
- 地域の方のお話を聞いて、前回よりも問題点がさらに明確に見えるようになった。
- 地域の方のお話を聞いて、新しい視点から活動を見つめなおすことができた。
- 地域の方と直接議論することができ、いい体験になった。
- 中山間地域・島しょ部の魅力や可能性を見直すことができ、いい刺激になった。
- 皆が自分の意見を発言できる場が設けられていてよかった。
- 体験学習に対する要望を述べることでよかった。もっと地域の人と学生のつながりをつくれるようにしてほしい。

- インターンシップに行った先輩の報告がうまくて聞き入ってしまった。どの報告も地域の課題や問題が整理されていてわかりやすかった。
- 討論が意見交換だったので、もっと深く議論したかった。
- 地域の方の報告を聞いて、どのような思いで体験学習を準備して下さったかわかり、考えさせられた。また地域に行きたいと思った。
- 1年生が興味をもって学べるプログラムを作っていくときに、学生の気持ちができる4年生や学生団体がなにかサポートするような仕組みがあるといいと思う。
- 自分と異なる意見を持つ人と考えを聞いて、考えの幅が広がった。